

## 第52回 質疑応答

Q1：通期見通しを40億円上方修正した理由について教えて欲しい。負ののれんはもともと長野銀行のバランスシートの改善に使用する予定だったが、使わずに済んだ部分を上方修正したということか

A1：上方修正は主に当行単体の要因によるもの。負ののれん発生益は長野銀行のバランスシート改善に充当する。

Q2：中期経営目標変更の理由と今後の配当方針について教えてほしい

A2：2025年度までは経費が先行し合併による相乗効果が現れるのは2026年度以降と想定していること、および今後も株主の皆さまへ過去最高の配当水準を維持することを勘案し変更した。

Q3：自己資本比率について、16.77%と非常に高い水準にあるが、バーゼルⅢ最終化の完全適用（2027年3月）でどうなるか

A3：完全適用ベースでは低下する。

Q4：自己資本比率の16.77%は高いと思うが、妥当と考える自己資本比率はどれくらいか

A4：今の段階では申し上げられない。さまざまな展開を検討している。

Q5：財務レバレッジが低いと思うが、今後増やしていくのか

A5：適正な自己資本等について検討中である

Q6：収益管理の中でRORAを使っているのか、使っているのであればその中でR（リターン）は何を使っているか

A6：RORAだけでは十分に管理できるとは考えていないため、さまざまな指標を検討中である。

Q7：合併について、コストシナジーにおけるシステム統合のポイントを教えてほしい

A7：合併とシステム統合を同日に行う予定であり、合併時に店舗も全て統合しコストを削減する。

Q8：有価証券運用について、社債運用がやや多いところが特徴的だが、長野銀行の有価証券の運用はどう活用していくのか。特に円債運用について教えてほしい。

A8：円債をコアの運用資産としている。その他を分散資産、補完資産としておいている。金利上昇局面において短期物にシフトした結果として社債が増えてきている。

Q9：今後、ホールディングカンパニー制の導入はあるか。

A9：現時点では考えていない。

以上